

# 動労連帯高崎第33回定期総会で 漆原委員長体制を確立！



動労連帯高崎は1月27日、熊谷商工会館で第33回定期総会を開き、団結旗開きを行いました。

総会では、組織拡大を勝ち取った昨年の闘いを総括し、JRの第2の分割・民営化攻撃と対決し、JRとTTS（高崎鉄道サービス）を貫く組織拡大へ闘う方針を確立しました。また、2年前の檜葉現地調査を「白タク」だとでっちあげ逮捕されたNAZEN埼玉への大弾圧を弾劾し、3人の即時釈放を求める特別決議（裏面）を上げました。病後の体を押して出席した和山繁委員長は「体調はまだ芳しくないが、3人の仲間への弾

圧をきいて、居ても立ってもいられずに、今日ここに来た」と闘いの人生を振り返り、みんなに檄を飛ばしました。

今回の総会をもつて和山委員長は勇退し、新たに漆原芳郎副委員長を新委員長に選出、鈴木副委員長、木村書記長体制を確立しました。埼玉労組交流センターの仲間から退任した和山さんに花束が贈呈され、みなで長年の労をねぎらいました。

### 旗開きで決意を新たに

続けて行われた団結旗開きでは、動労連帯高崎結成30周年記念のDVDを上映、国鉄分割・民営化に反対する動労千葉のストライキ決起から、動労連帯高崎の結成と動労総連合の結成大会などの懐かしい闘いのシーンから、この間の外注化反対ストライキやTTSからの新組合員の結集、そして籠原事故などの事故の激化の映像など激闘の30年を振り返りました。

部落解放同盟埼玉県連や国労高崎の仲間が来賓あいさつ。熊谷地区労を代表して発言した熊谷市職の労働者は「自治体労働者が不当逮捕された今回の弾圧は許せない」と表明しました。さらに加須市職、さいたまユニオン、群



ンターが、国鉄決戦とともに闘い、NAZEN埼玉への弾圧を粉砕する熱い思いをたぎらせました。

### 動労連帯高崎とともに闘おう！

今日の営利優先、安全無視、地方切り捨て、非正規職化のJRの姿を見るならば、われわれが和山委員長を先頭に国鉄分割・民営化から30年、これに反対して闘いぬいてきたことの正義はますます明らかとなります。

馬合同労組、埼玉労組交流センター、群馬労組交流セ

JRによる「無限」の労働者階級への攻撃を絶対に許さず、3月ダイ改反対、大幅賃上げ獲得の春闘に決起しましょう！

## 外注化・強制出向無効裁判

## 漆原副委員長が大法廷でJRを圧倒

外注化反対訴訟の第2回証人尋問が12月16日、東京地裁の大法廷で行われました。

動労総連合と支援は、大法廷を埋め尽くそうと傍聴券交付への大動員を実現しました。これに恐怖したJR側も

本社と、千葉、水戸、そして高崎支社やTTSまで必死で傍聴券獲得へ動員してきました。法廷では動労水戸の仲間とともに動労連帯高崎の漆原

芳郎副委員長が証言に立ちました。動労水戸の石井委員長は、MTS（水戸鉄道サービス）でローパー（直雇い）労働者の育成がまったくできていない現実を暴きました。また、輸送混乱時にはJRの助役がMTSへの出向者に直接業務指示を出す事態が頻発し、作業内容を変更する手続きも煩雑になっていること、MTS土浦事業所で、運転



運転をしたことなど、外注化後の職場の実態を暴露しました。さらに、動労水戸のストライキに際し、JR水戸支社が介入してMTSにスト破り要員を配置させたことを弾劾しました。

勝田車両センターで誘導担当の職にある藤枝組合員は、15年2月12日に勝田車両センターで起きた事故について証言しました。この事故は、車両を検修庫に入れる際、車両の流転を防ぐための手歯止め

に車両が乗り上げ、脱線したというものです。外注化により指揮命令系統が分割されたことが、事故の原因であることが暴露しました。

**籠原の偽装請負の実態を暴露**

動労連帯高崎の漆原副委員長は、エルダー社員制度によりTTS（高崎鉄道サービス）籠原事業所に出向して構内運転業務に携わっているが、ダイヤが乱れた際、車両基地に入区させる列車の順序の変更が、JR側の信号担当者から直接伝達されたと証言し、混乱時にJRからTTSへの発注書も出されていない実態を暴露しました。また、昨年3月15日の籠原駅漏電炎上事故

について、いまだにJRが原因を明らかにしていないでためな現実を暴露し、外注化が原因だと鋭く指摘しました。

### 3年出向は嘘だった！

JR本社の運輸車両部次長・齋藤証人は、われわれの追及に対して「3年の強制出向を強行した」12年の時から外注化の完成には10年かかると思っていた」と述べました。「出向は3年」という説明ははじめから嘘だったのです！

MTSでプロパー労働者が育成されていない事実についても、齋藤は「知らない」を繰り返しました。

### あわてて籠原にきた富田社長

外注化裁判で籠原事故問題を暴露されたJRは、公判のわずか10日後の12月27日、突

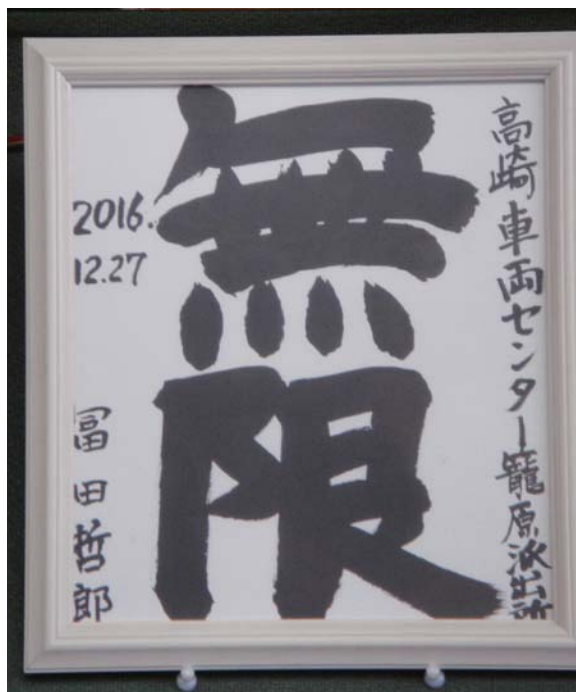
如籠原運輸区、籠原駅、籠原派出所、籠原事業所の視察を行いました。昨年3月の事故から一年がたとうとする中で、いまだに事故原因を明らかにすることができない中で、富田は施設の古さに驚きつつ、「無限」

なる意味不明の言葉を残して去っていきました（写真）。

富田よ！ 分割・民営化から放置されていたガイシの責任はJRにあるのではないのか？ 「無限」というのは責任も外注化するJRのあくなき利益追求の決意表明なのか？ 水平分業Ⅱ外注化のことなのか？

事故の最大の原因こそ、このようなJRの無責任な態度にあることは明らかです。こんな連中の無限の利益のために、我々は毎日汗だくになって働かされているのでしょうか。

われわれは外注化を絶対に許しません。春闘を戦闘的に闘うぞ！



## 第33回定期総会特別決議

# NAZEN 埼玉への弾圧に抗議し、3名の即時釈放を要求する

1月18日、埼玉県警は「道路運送法違反」容疑をデッチ上げ、反原発闘争の先頭に立ってきたNAZEN埼玉の三名の仲間～3名は動労連帯の盟友でもある～を不当逮捕した。2015年9月に、費用を分担してレンタカーを借り、福島県楢葉町に現地調査に行ったことが犯罪行為にあたるというのだ。

これは、高線量地域への帰還強制と住宅支援打ち切り、被曝強制の常磐線全線開通に反対する3・11反原発福島行動'17に対する弾圧であり、フクシマの怒りへの圧殺攻撃だ。また、直前に迫ったNAZEN埼玉主催の2月5日「避難者への支援打ち切りはおかしい 帰還と被曝の強制に反対する集い」（講演：元双葉町長井戸川氏）への直接的な破壊攻撃だ。

さらに、改憲と戦争に突き進む安倍政権による、東京オリンピックを口実にした新共謀罪攻撃の先取りだ。

動労連帯は、NAZEN埼玉の全面協力のもと、昨年9月25日に熊谷で映画「A2-B-C」上映会を開催するなど、反原発闘争に取り組んできた。昨年3・11反原発福島行動'16への参加がきっかけで組織拡大も実現してきた。

NAZEN埼玉・反原発闘争への弾圧に強く抗議するとともに、三名の仲間の即時釈放を要求するものである。不当弾圧を粉碎し、2・5NAZEN埼玉集いと3・11反原発福島行動'17の成功に全力を尽くす。なによりも、1047名解雇撤回、外注化・非正規職化反対、3・4ダイヤ改悪反対の国鉄闘争勝利をめざし、JR-TTSを貫く組織拡大を実現する。

以上、決議する。2017年1月27日 国鉄高崎動力車連帯労働組合第33回定期総会 参加者一同